

三井寺

三井寺は歴史的に、1868 年までの日本の首都・京都を靈的に守護する役割を担っていた四大仏教寺院の一つでした。三井寺は天台寺門宗の総本山で、大津市と京都の境にある長等山の麓にあります。

この寺院は 672 年に、弘文天皇（648-672）の皇子、大友与多王が亡き父の菩提を弔うために「園城寺」として創建しました。200 年後に長吏・円珍（814-891）が「三井寺」と改称しました。円珍のリーダーシップの下で三井寺は、奈良の東大寺と興福寺、そして比叡山頂の延暦寺と共に、京都を守護する四大寺院に数えられるようになりました。

三井寺は歴史を通じて何度か破壊されましたが、そのたびに再建されてきました。300 エーカー（約 1.21 平方キロ）の境内には重要な建物が 40 棟あります。境内には国宝の指定を受けたものが 10 点、重要文化財は 42 点あります。

重要文化財の一つは大門で、1452 年に建造され、1601 年の寺院再建時に三井寺に移されました。堂々たる 2 階建ての木造の門は、伝統的な檜皮葺の穹窿構造の屋根をしており、1457 年にまで遡る守護神たる 2 体の仁王像が安置されています。

広大な木造の金堂は 1599 年に建てられたもので、国宝に指定されています。金堂の前には別の重要文化財である、1602 年建立の鐘楼があります。湾曲した切妻屋根に格子というその構造は、通常の鐘楼よりも装飾の要素を高めています。内部には、近江八景の一つに見られる有名な三井寺の鐘が吊られています。近江八景は近江国（現在の滋賀県）の美しい景観を選定した伝統あるもので、詩歌や美術の主題として人気が高まりました。

境内の最も特徴ある建物に数えられるものに、室町時代（1336～1573）に建造された経蔵があります。この禅様式の建物には、中国で発明された、経典の収納棚を八角形型に配置した輪蔵があります。一切経が収納された輪蔵は、その大きさにもかかわらず、僧 1 人で回転させることができます。三井寺のその他の宝物は、現代的な文化財収蔵庫に収められています。文化財収蔵庫では、9 世紀に制作された彫像、かつての将軍たちの署名がなされた巻物、狩野光信（1565-1608）作の金箔が貼り付けられた 24 枚セットの襖絵などが展示されています。

三井寺は、春の時期の桜の花咲く境内の美しさや、大津市中心部と琵琶湖を一望できる眺めで有名です。最高の眺望ポイントは、湖を見下ろす高台にある観音堂の前です。観音堂は、西日本の関西エリアにある西国三十三所観音巡礼の一つにもなっています。